

## 1 学習評価の改善・充実

### (1) 学習評価の改善の基本的な考え方

新学習指導要領では、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにするとともに、各教科・科目等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすることが求められている。

そのため、評価に当たっては、いわゆる評価のための評価に終わることなく、教師が生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、自分自身の目標や課題をもって学習を進めていけるように、評価を行うことが大切である。

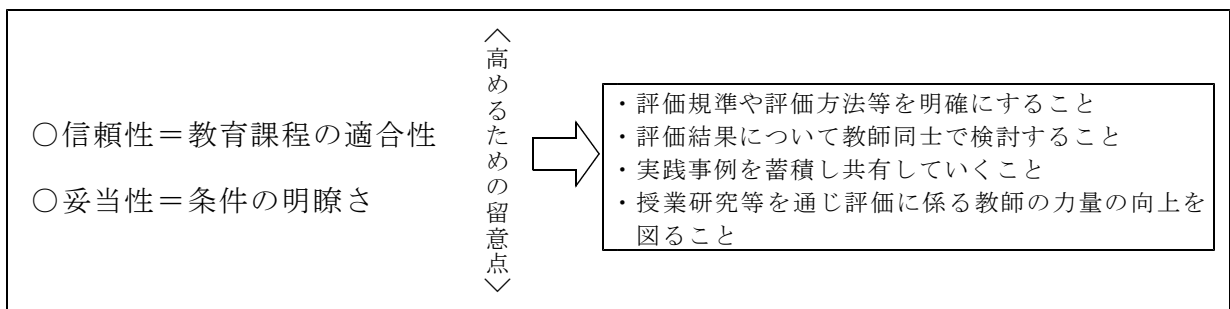
実際の評価においては、学習の過程の適切な場面で評価を行う必要があり、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視することが大切である。特に、他者との比較ではなく生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることも重要である。

また、目標に準拠した評価を推進するため、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価することとしているが、育成すべき資質・能力の一つである「学びに向かう力、人間性等」には、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから、個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。

このような3観点でのバランスのとれた学習評価を行っていくためには、教師が学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが重要である。

### (2) 学習評価に関する工夫

新学習指導要領では、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫することが求められている。



### (3) 評価の観点及びその趣旨

教科「水産」の目標は、次のとおり。

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
資質・能力の三つの柱	育成すべき資質・能力
知識及び技術	水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力	水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
学びに向かう力人間性等	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

目標に準拠した評価を行うため、教科「水産」の目標における、育成を目指す資質・能力から、「評価の観点及びその趣旨」は、次のとおり示すことができる。

観 点	趣 旨
知識・技術	水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

### (4) 評価規準の設定

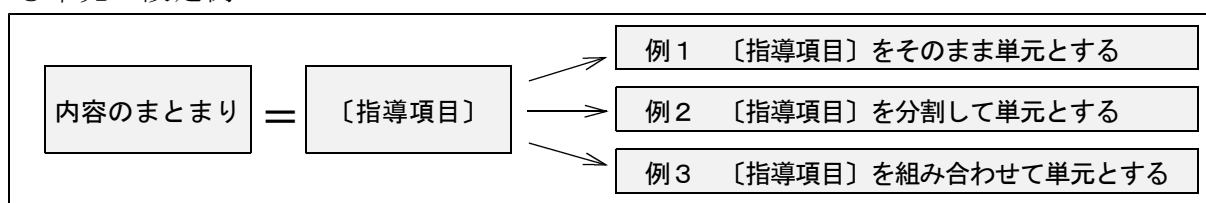
評価規準の作成に当たっては、教科の目標と(3)に挙げた「評価の観点及びその趣旨」との関係性を踏まえ、各科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」を作成し、それに基づいて、各科目の「内容のまとまりごとの評価規準」、さらに「単元の目標」、「単元の目標に対する評価の観点の趣旨」、「単元の評価規準」を作成する必要がある。

学習指導要領解説に示されている各科目の「第2 内容とその取扱い」の「2 内容」の各〔指導項目〕において、育成を目指す資質・能力が示されており、この〔指導項目〕の記載はそのまま学習指導の目標となりうるものであることから、〔指導項目〕の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの等を、「〔指導項目〕ごとの評価規準」とし、「内容のまとまりごとの評価規準」に置き換えることができる。

なお、単元は、生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各校の生徒や地域の実態、学科の特色に応じて適切に設定することに留意する必要がある。

ここでは、単元の設定例及び「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイントを示す。

○単元の設定例



○「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する際の各観点のポイント

観 点	ポイント
知識・技術	学習指導要領の「1 目標」に示す資質・能力を身に付けることができるよう、「2 内容」の各〔指導項目〕に対し、学習指導要領解説の〔指導項目〕の大項目ごとに示された、「このねらいを実現するため、知識及び技術を身に付けることができるよう、〔指導項目〕に記載される①を参考に、「理解する」「身に付ける」「習得する」の語尾を「理解している」「身に付けている」「習得している」として表すこと。
思考・判断・表現	知識・技術と同様、学習指導要領解説に示された、「このねらいを実現するため、思考力、判断力、表現力等を身に付けることができるよう、〔指導項目〕に記載される②を参考に、「(発見し、) 解決する」の語尾を「(発見し、) 解決している」として表すこと。
主体的に学習に取り組む態度	知識・技術と同様、学習指導要領解説に示された、「このねらいを実現するため、学びに向かう力、人間性等を身に付けることができるよう、〔指導項目〕に記載される③を参考に、「自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む」の語尾を「自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる」として表すこと。

(5) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

各科目の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「〔指導項目〕ごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、「単元の評価規準」並びに「指導と評価の計画（評価場面や評価方法の計画）」を作成して観点別学習状況の評価を行うとともに、生徒の学習改善や指導の改善につなげることが大切である。

観点別学習状況の評価の各観点到に係る留意点及び取扱いは、次のとおり。

○観点別学習状況の評価の各観点到に係る留意点及び取扱い

観 点	留意点及び取扱い
知識・技術	ペーパーテストにおいて事実的な知識の習得を問う問題、概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図ることが考えられる。また、内容の特質に応じて観察・実験を行ったり、式やグラフで表現したり、実際に知識や技術を用いた場面を設けるなど、多様な方法が考えられる。
思考・判断・表現	ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど、評価方法を工夫することが考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	①知識及び技術を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面から評価することが求められる。この「自らの学習を調整しようとする側面」の評価に当たっては、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるよう工夫したり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を設けるなどの工夫が考えられる。

なお、評価に係る定期考査の取扱いについては、定期考査から得られる結果が学習状況の全てを表すものではないことから、評価する機会や重みが定期考査に偏ることのないよう、評価の時期や場面について工夫する必要がある。

### (6) 観点別学習状況の総括の進め方

観点別学習状況の評価の総括の場面とその流れは、次のように3段階の場合が多いと考えられる。

- ・ 単元（題材）における観点ごとの評価の総括
- ・ 学期末における観点ごとの評価の総括
- ・ 学年末における観点ごとの評価の総括

ある単元（題材）において、多くの評価規準を設定したり、多くの評価方法を組み合わせたりすることは、評価を行うこと自体が大きな負担となり、その結果を後の学習指導の改善に生かすことが十分にできなくなることもあるので、留意する必要がある。

ここでは、単元（題材）や学期末における評価の総括を想定し、評価結果の組合せにより総括する方法の例と、評価結果を数値化して総括する方法の例を示すが、同じ評価結果でも総括する方法によって評価の総括が異なる場合を例としている。

各学校の状況はそれぞれ異なるため、総括に当たっては、各学校で科目の特性や具体的な学習活動等を踏まえて、総括の場面や方法を工夫することが大切である。

#### ア 評価結果の組合せにより総括する方法の例

評価機会 →	1	2	3	4	5	6	7	8	評価の総括
知識・技術	a	a	b	b			b	a	A
思考・判断・表現		b	c		b	a	c	b	B
主体的に学習に取り組む態度	b		b	b	c		c		C

※a、b、cの数が多いものがその観点の学習の状況を表しているとの考えを基本とするが、同数やばらつきが見られるものについては個別に判断して総括する。

総括の方法によって評価結果が異なることもあることから、各学校で科目の特性とともに、生徒や地域の実態等を踏まえて、総括の方法を工夫する必要がある。

#### イ 評価結果を数値化して総括する方法の例

評価機会 →	1	2	3	4	5	6	7	8	平均値	評価の総括
知識・技術	a	a	b	b			b	a	$(3+3+2+2+2+3)/6=2.50$	A
思考・判断・表現		b	c		b	a	c	b	$(2+1+2+3+1+2)/6=1.83$	B
主体的に学習に取り組む態度	b		b	b	c		c		$(2+2+2+1+1)/5=1.60$	B

※ここでは、a=3、b=2、c=1として平均値を計算し、A：平均値>2.5、B：2.5≥平均値≥1.5、C：1.5>平均値で総括している。

なお、上記の例にあるような、c評価（努力を要する）とされた生徒には、理解を促すワークシートを活用した家庭学習や補習を通じて、その範囲の内容を再確認するなど、必要な手立てを講じる必要がある。

## 2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

ここでは、教科「水産」の原則履修科目「水産海洋基礎」における〔指導項目〕である「海のあらまし」の評価規準及び指導と評価の計画例を示す。

### (1) 〔指導項目〕のねらい

海の成り立ち、海の物理的・化学的要素、海の生物、海が地球環境や人間の生活に果たす役割、偉人、文化、産業、資源、関連法規などについて取り上げ、それぞれの基礎的な事項とともに、海、水産物及び船と生活の関わりについて理解させ、海に関する学習に興味・関心をもたせることをねらいとしている。

### (2) 〔指導項目〕において育成を目指す資質・能力

学習指導要領から転記

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
海と人間生活の関わりについて基礎的な内容を理解すること。	海と人間生活における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決すること。	海と人間生活の関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

### (3) 〔指導項目〕の評価規準

育成を目指す資質・能力から語尾を変換して作成

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
海と人間生活の関わりについて基礎的な内容を理解している。	海と人間生活における課題を発見し、合理的かつ創造的に <u>解決しよう</u> としている。	海と人間生活の関わりについて自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もう</u> としている。

### (4) 指導と評価の計画（20時間）

小項目	授業時間数
1 日本の海、世界の海	6時間
2 海と食生活・文化・社会	5時間
3 海と環境	4時間
4 海と生物	5時間
20時間	

例えば、小項目「海と生物」を単元とした場合、単元の目標、単元の評価規準、各授業時間の指導のねらい、生徒の学習活動及び重点、評価方法等は次のとおり。

#### <単元の目標>

指導項目の目標と解説を参考に、各学校の実態に応じて作成

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察について基礎的な内容を理解すること。</li> <li>海や海水の生物の特性、生態系サービスの概要について基礎的な内容を理解すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決すること。</li> <li>海や陸水の生物の特性、生態系サービスの概要についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に解決すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。</li> <li>海や陸水の生物の特性、生態系サービスの概要について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。</li> </ul>

#### <単元の評価規準>

単元の目標から語尾を修正して作成

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察について基礎的な内容を<u>理解している</u>。</li> <li>海や海水の生物の特性、生態系サービスの概要について基礎的な内容を<u>理解している</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に<u>解決しよう</u>としている。</li> <li>海や陸水の生物の特性、生態系サービスの概要についての課題を発見するとともに、合理的かつ創造的に<u>解決しよう</u>としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魚介類の飼育や観察について自ら学び、主体的かつ協働的に<u>取り組もう</u>としている。</li> <li>海や陸水の生物の特性、生態系サービスの概要について自ら学び、主体的かつ協働的に<u>取り組もう</u>としている。</li> </ul>

参考に  
して  
作成

語尾を  
変換  
して  
作成

<ねらい・学習活動及び重点、評価方法等>

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	・生物の分類について概要を理解し、身近な魚介類を分類できるようにする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価の低かった生徒については、図鑑などの資料を参照させ、もう一度取り組ませる。</span>	知	○	ワークシート①
2	・魚介類の形態観察を通して体のつくりや特徴を把握し、水産生物に対する理解を深める。	知	○	観察スケッチ
3	・生物多様性や生態系サービスについて理解し、身近な事柄に置き換えて考察する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価の低かった生徒については、評価の高かった生徒のワークシートを参考にさせたり、追加で参考資料を用意したりするなどしてもう一度取り組ませる。</span>	思	○	ワークシート②
4	・本単元で学習した内容の中からグループごとに任意の探究テーマを決め、発表資料を作成する。 <u>(クラウドのデータ共有などを活用して作成)</u>	主		行動観察
5	・グループごとに発表し、互いの発表について評価する。	主	○	発表資料

※知：知識・技術、 思：思考・判断・表現、 主：主体的に学習に取り組む態度

(4) 評価問題等

※クラウドサービスを活用して配付し、画像データを張り付けさせたり調べた情報を追加したりできるようにする。

ア ワークシート①「魚介類の分類」(例)

1年 ○○○科 ○○番 名前○○ ○○

1 名前を知っている身近な海の生物について調べましょう。

(1) 調べる生物の名称 ( 「アブラコ」などの地方名等でも可 )

(2) 分類	界	門	綱	目	科	属	種

(3) 引用元のURL (http:// \_\_\_\_\_ )

2 1で調べた生物と同じ科に属する生物を調べましょう。

属	種
和名	和名

画像

画像データを張り付けさせる。

3 次の項目に当てはまる生物の学名及び和名を調べましょう。

- ・体側に黒点模様
- ・ニシンの仲間
- ・関東の市場では「ナナツボシ」とも呼ばれる

学名： \_\_\_\_\_

和名： \_\_\_\_\_

ヒントの代わりに画像を掲載したり、口頭でヒントを出したりして難易度を調節する。

イ ワークシート②「生態系サービスの概要を考察する」(例)

1年 ○○○科 ○○番 名前○○ ○○

1 生態系サービスの4つの分類である「調整サービス」、「供給サービス」、「基盤サービス」、「文化的サービス」のうち1つを選び、その具体例をインターネット検索で調べてみましょう。

なお、検索の際に使用したワード及び主な情報が掲載されているURLも記録しましょう。

選択した生態系サービスの分類	(例) 供給サービス
使用した検索ワード	
URL	http:// _____
具体例	(例) 森林の樹木を木材として利用したり、焼き畑などの農地利用による

2 1で調べた生態系サービスについて、シナジー関係にある生態系サービス、又はトレードオフ関係にある生態系サービスにはどのようなものがあるか、その理由も含めて考察しましょう。

シナジー ( ) トレードオフ (○) 関係にある生態系サービス <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">                     該当項目に○                 </div>	生態系サービスの分類： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(例) 基盤サービスの環境や調整サービスの水質浄化、水量調節など</span> 理由： <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(例) 二酸化炭素吸収量の減少による温暖化や、川の水質・水量の変化による生態系へ悪影響が考えられる。温暖化の影響で海水温が上昇したり、川の水質や水量が変わったりすれば、鮭が戻ってこなくなったり、昆布やサンマが取れなくなったりするかもしれない。</span>
---	---

3 将来にわたって持続的に生態系サービスを受けるには、どのような取組が必要か。あなたの考えをまとめましょう。